

# 「みんなの山下ふ頭に〇〇があったらイイナ」 プロジェクト

山下ふ頭を横浜らしく、  
市民に開かれた活動拠点に。



本プロジェクトは、横浜市民の有志が提唱する企画案です。  
したがって、既存の団体との直接的関連はございません。

2023年3月19日(現在)

「みんなの山下ふ頭に〇〇があったらイイナ」プロジェクト  
事務局：古澤・吉岡・笠原  
E-mail: ytug2023@gmail.com



Facebook

## 「みんなの山下ふ頭に〇〇があったらイイナ」

### プロジェクト趣旨

山下ふ頭開発におけるカジノを含むIR事業が頓挫し、再開は振り出しに戻りました。同地域は関内・元町・中華街・山下公園という首都圏で最大の集客を可能な好条件下にあり、“みなとみらい21”以降の横浜市街地における大規模開発はこれが最後となるでしょう。

いっぽうで、横浜が“22世紀の世界情勢を見据えた真の国際都市”を目指すのであれば、人口減、格差拡大、気候変動などの歴史的転換期の実状を踏まえ、幸せと豊かさを実感できる都市(まち)づくりが不可欠です。そこで、山下ふ頭再開発においては、従来型の巨大産業中心の業務集積だけではなく、次世代を見据えた人的資産の集積とその活動拠点として、クリエイティブで魅力ある構想にすべきだと考えます。

また、市役所側も民意を取り込むための意見募集の機会を設けていますが、もともと行政機関は多様な意見に対応する術が備わっておらず、これらの取り組みも形骸化しがちです。そこで、私たちは広く一般からの意見を取り入れたうえで、横浜市民や横浜に期待する人達にとって利用しやすく潜在的価値の高い提案を、市民の側から興す必要があると考え本プロジェクトの実施に至りました。

横浜には専門的な知識や経験のある方が数多くお住まいです。本プロジェクトでは、そのような市民と協働しオープンなかたちで企画を検討します。分野や地域を超え横断的に行うことで「知の融合」をはかり、グローバルで次世代にわたり価値を創造し続ける持続的な公共性の高いプラン作成を目指します。衰退しつつあると言われる日本を横浜から変革することを目指して私たちはこのプロジェクトを発進させます。その成功は、横浜市民のシビックプライドの形成に貢献することでしょう。

「みんなの山下ふ頭に〇〇があったらイイナ」プロジェクト  
事務局一同



# 山下ふ頭再開発計画と連携したエリアマネジメント

(参考案)



**船利用の海外での実施例**

世界各地では船やタンカー等を改装した劇場が多く存在し、そこでは多様なプログラムが上演・展示されている。国内では、東京の天王洲アイランドに4艘の小舟を改装した水上ホテルがある。手作りの風合いを取り入れた外装で、オランダの運河に浮かぶ水上住宅をイメージしている。



ペニッシュ・スペクタクル【仏】  
船を改装した劇場

## 横浜の発展でのアイテム「船」「コンテナ」を活用したまちづくり計画

山下ふ頭再開発事業計画と連携して、市民が集える憩いの場をつくる。芝と樹木を多用した多目的公園として、市民の使い勝手の良いオープンエリアを創設し、岸壁には既存の船劇場（ボートシアター）を含む数艇の改修した船を係留させ、市民や各種団体が利用できる複合施設として運営を行う。

そして、横浜で活動する複数の団体と協同して、文化芸術活動コミュニティを形成し、横浜の文化芸術を含んだ市民活動の拠点とする。また、周辺にはコンテナを改造したショップ・カフェ・バー・ギャラリーを並べ、ハーバーモールとした観光名所とし、山下ふ頭の商業的開発との親和性を保つ。

市民が協働してつくる創造の場や、文化芸術の新しい発信地となることで横浜のブランディングアップとインバウンド効果に繋げる。

## 船の活用プラン

- ・ボートシアターを利用した演劇や展示会、上映会、講演会（ホール）
- ・屋内、屋根をステージ用に改造しての演劇やコンサート
- ・貨物用コンテナはレストラン・雑貨店として再利用（ショップ）
- ・稽古場、ドラマ・映画撮影等のロケ利用（シェアスタジオ）

※ 課題としては、乗降時の安全面や非常時の避難、トイレや電源などのインフラ環境整備、興行実施のための諸許可（仮興行場、仮停泊など）の取得などが考えられる。（現在、解決に向けて調整中）

横浜には老朽化した舳やコンテナが多数あります。既存の資産を利活用した安価で、横浜らしい環境にも優しい開発の提案。



イメージ



参考例



参考例

※コンテナ使用例



参考例



丸の内ストリートパーク

※丸の内ストリートパーク  
密集・密閉・密接を避けた  
新しいライフスタイルの積極  
的社会的実験プロジェクト

### コンテナの活用プラン

- 店舗： 各種ショップ・カフェ&バー
- 公共空間： リハーサル室・ギャラリー会場・図書館
- オフィス： エリア事業部・会議室・個人事務所  
ミニFM局・地域情報ステーション
- 資材倉庫： イベント資材・緊急物資の備蓄

- 公園内のコンテナエリアでは、ライブ、大道芸、映画上映会、マルシェ等を定期的に開催。  
(コンテナで囲んだ屋外ホール、ステージの設置)
- \* コンテナ利用ではないが、屋外の道路や広場を活用した参考例としては、丸の内ストリートパークがある。

- 水光熱のインフラをジョイント式にすることで、定期的にコンテナの移動、組み上げが可能。  
イベントやライブ、企画ごとに機能性を保ちながら店舗の移動、景観の変化も楽しめる。

### 今後の進行スケジュール (概略)

2023.3.14

	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月・1月	2月・3月	4月	
山下〇〇P														
体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>準備会開催</li> <li>呼びかけ人依頼</li> <li>体制作り</li> </ul>						<ul style="list-style-type: none"> <li>第一回会合開催 (以降4回程度)</li> <li>組織の強化</li> <li>課題の抽出</li> <li>提案の分類化</li> <li>メディアを通じ活動を周知</li> <li>告知PT稼働開始</li> <li>連絡網の強化</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>提案の集約開始</li> <li>提案書を担当機関に提出</li> <li>報告会の開催</li> </ul>		組織は一旦終了し、状況に応じて対応を再考。			
ポータルシアター														
会との連携体制	山下〇〇Pとの連携模索													
興業状態							興業場法の強要範囲内				興業場法の認可を受ける			
新山下埠頭							・非公開企画を実施				本格運用に向けた改修			
山下埠頭							・実証実験告知 2023実証実験開始 (予定)				実験終了		2024前期開始	

# 本格的な劇場運営を目指した横浜ボートシアターの動き

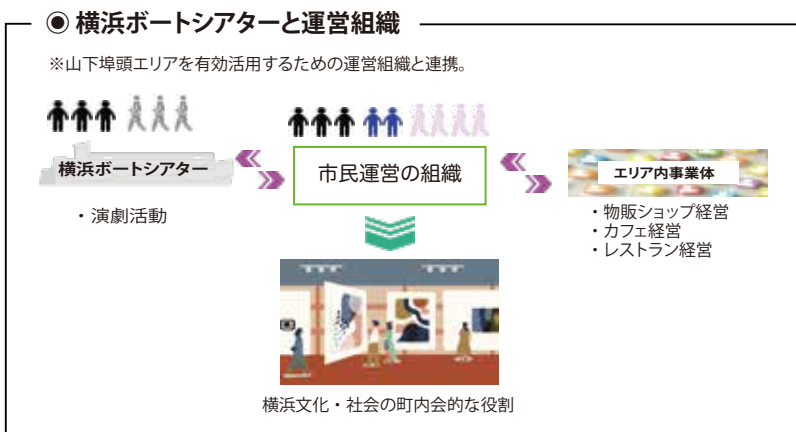
## 横浜ボートシアターからの提案

「みんなの山下ふ頭に〇〇があったらイイナ」プロジェクトの中で、当劇団は「船劇場」の利活用を提案します。鋼鉄製の船を大胆に劇場化した、世界的に見ても稀有な空間「船劇場」の活用は、横浜の特色を活かしたまちづくりに大きく貢献できるはずです。

船劇場の持つ「場の力」とは、鋼鉄の巨体を揺らす波の威力や、内部の赤錆た壁や古びた木の天井が感覚に語りかける歴史、それらと与えるインスピレーションであり、乗り込むことで異世界へと誘う、他に類を見ない仕掛けなのです。

有志の方々と港町・横浜の歴史が感じられる企画を実行していくとともに、多くの芸術家や企画者により、船劇場ならではの、そこでしかできない体験が生み出されることを願っています。そして、劇団の枠を超え、新たな横浜らしさを生み出していく横浜の文化発信船となることを目指しています。船劇場をめぐる様々な出会いの中で、当劇団も大いに刺激を受け、切磋琢磨して行く所存です。

船劇場が市民を中心とした芸術発信・文化交流の場となるために、皆様から様々なご意見をいただければ幸いです。



## 改修・準備状況

2022年2月28日

クラウドファンディングによる資金調達を得て、ドックに入り長期安定的に使用出来るよう全面補修を行う。帰港後、劇団員やボランティアの人と一緒に甲板部や側面部のペンキ塗りと船内の整理を行う。



遠藤律子ジャズトリオ演奏運用テスト

2022年6月14日

安全確認と運営のシミュレーション並びに船劇場PR用動画の撮影のため、遠藤律子ジャズピアノトリオ・公演を関係者向けに夜間実施。安定電源の確保の必要性や今後の改修計画の評価作りが出来た。



船体上部塗装作業

- 関連法規に準じた排気容量の換気扇の設置
- 母屋のリフォームバックヤードの整理、改修
- 照明(LED)・音響・映写環境を段階的に整備

2023年2月現在

興行場法等に基づき一般劇場としての運営を行うための準備、確認中。

- 消防署と避難路、誘導灯と消火器等の確認作業
- 横浜市港湾局の承認を得るために必要なデータと資料の準備
- 関東運輸局の臨時航行検査を受けるための準備

2023年初夏を目標に、山下埠頭にてテスト運用を計画中。

## ● 運用における安全対策



安全柵の改修と係留地に対応出来る堅かなタラップを製作。非常口にも簡易タラップを確保。



非常口(4箇所)と非常灯の設置により現状消防法を満たしている。



船内にエアドック2機を設置済み排気ファン設置予定。

## 横浜ボートシアター基本資料

2022年4月5日

### 横浜ボートシアター

1981年、横浜元町裏を流れる中村川に係留する木造ダルマ船を劇場とし、脚本・演出家の遠藤啄郎を中心に旗揚げ。“アジア”をテーマに仮面、古い帯や着物地を使用した独創的な衣裳、手作りの楽器などを用い、語りや舞踊的身体表現を軸に壮大な叙事詩を物語る祝祭劇を展開。代表作の『小栗判官・照手姫』『マハーバーラタ三部作』などで高い評価を受ける。現在は鋼鉄の舳を改造した船劇場で活動。2001年の横浜トリエンナーレでは『王



『若きアビマニユの死』  
(チラシデザイン：杉浦康平)



小栗判官・照手姫  
(衣裳：緒方規矩子)

サルヨの婚礼』を発表し多くの反響を呼ぶ。インドネシア国立芸術大学との共同創作『耳の王子』、生命史学者中村桂子氏と“語る科学”をテーマに共同企画した『賢治讃え』、依代の人形と紡ぐ劇『恋に狂ひて』など新たなテーマを模索してきた。エレクトロニクス、影絵などの手法も加わり、根底に祈りを孕んだ演劇作品の創出を継続中。日本文化デザイン賞(劇団)、第18回紀伊國屋演劇賞(遠藤)、第50回横浜文化賞(遠藤)ほか受賞。

#### ○劇団員

吉岡紗矢(代表)、奥本聡、松本利洋

#### ○劇団連絡先

住所 〒143-0016 東京都大田区大森北1-11-11-404

TEL 080-6737-5208

EMAIL yokohama.boat.theatre@gmail.com

WEB yokohama-boattheatre.org



『若きアビマニユの死』  
(仮面：遠藤啄郎、緒方規矩子)

### 船劇場の歴史

1970年代、横浜元町裏の中村川で演劇集団アトムの会が拠点にしていたのが木造ダルマ船を改造した30席ほどの船劇場。80年代にその後を引き継いだ横浜ボートシアターは、“アジア”をテーマに壮大な叙事詩を物語る祝祭劇を展開。船劇場は異次元へ旅立つ装置として人気を博す。当時のスタッフには、遠藤啄郎をは



1980年代の木造船劇場

じめ各界を代表する人々(衣裳家：緒方規矩子、舞台美術家：堀尾幸男、グラフィックデザイナー：杉浦康平、音楽家：矢吹誠など)が集う。1996年に二代目の木造船劇場が沈船したのち、市民団体「ふね劇場をつくる会(以下ふね会)」が発足し、当劇団をフランチャイズ劇団とする市民船劇場の創設を目指して市民より寄付を募り、ふね会総会での決議により鋼鉄製の舳を劇場に改装。2001年、トリエンナーレ周辺企画として『王サルヨの婚礼』を新港埠頭岸壁に係留して上演。2週間弱の公演は全て売り切れ大いに好評を博



2001年、現在の船劇場柿落とし公演  
(衣裳：緒方規矩子／舞台美術：堀尾幸男)

す。公演後、常設の劇場にする許可が行政から下りず、2013年にふね会は解散。現在まで当劇団が管理、修繕等に責任を持ち、船劇場での稽古や小規模の催しを内々に行い続けている。なお、三代目船劇場の元となった舳は横浜回漕協会元専務理事・田中鐵雄氏より当劇団前代表・遠藤啄郎に寄贈されたものである。

# 「みんなの山下ふ頭に〇〇があったらイイナ」

## プロジェクト

### 賛同者募集のご案内

ただいま幅広い方々の意見を収集するため賛同者を募っております。

協力頂ける方は下記項目を記載のうえ、賛同者登録URLより登録（※）をお願いします。  
拝受した情報は本プロジェクトの活動のみで使用し、責任を問われたり寄付を願うことは御座いません。

掲載の承認を頂いた方にかぎり、いずれ広報手段により披露させて頂く予定です。

※本Facebookの右上の登録ボタンでも対応しております。

- ①お名前：
- ②職業：
- ③他役職：
- ④お住まいの地域： （例） 横浜市、世田谷区、海外
- ⑤E-mail:
- ⑥FB 等への掲載許可 （例） 許可 不許可
- ⑦その他ご意見、スタッフとして協力を頂ける方は追記下さい。



賛同者登録 URL

※空欄があっても構いません。  
※掲載を不許可とされた場合は、賛同者人数に加算させていただきます。  
※職業や役職名が多い場合は掲載時に当方にて選択させていただきます。  
従って、役職名等は優先する順にて記載下さい。

※不明な点が御座いましたら、下記 E-mail アドレスにてお問い合わせ下さい。

E-mail : ytug2023@gmail.com

